

ージを応用した装置を作って行なったものである。

3. 上記の種々の方法で針の性能の良否を比較検討した結果、試作した針は従来の針に比べて縫い易く仕上がりがりも良いことが確かめられた。また試作した2種類の針についても、使用する布地によって差異はあるが、優劣の差のあることが判明した。この原因は両試作針の素材、外形および仕上げ処理の違いによるものと考えられ、これらの点を追求することによってさらに性能の良い針が開発できるものと期待している。

## B—52 手縫針（0.46 mm）の試作

広島文化女短大 海見 綾子

1. 従来よく使われている手縫針（例えば4の3）は絹地や薄地および化繊系統の目の細かい布地を縫うには不都合な点が多い。すなわち手縫いした個所の仕立上がりの美観が損われる。そこで新しくそれらに適合した手縫針を試作し、その性能の検討を試みることにした。

2. 種々の条件を勘案して針径を従来の針より小さく0.46mmとし、この径で素材、外形および仕上げ処理の異なる2種類の針を試作した。これらの針と従来の手縫針とを多くの生徒に数年間に亘って実際に使用させてみて、その縫い味（使用感）と布の仕上がり状態を調べさせた。さらに定量的な実験として、これらの針によって布にあげられた穴の顕微鏡写真を撮って穴の大小および繊維の傷み方を調べ、これに加えて針が布を通る際に受ける力の測定も行なった。この力の測定は新しく歪ゲ